

目 次

はしがき

いまを生きる アメリカ文学史の現在
日本語読者のための、世界の中のアメリカ文学史

序 章	ダイジェスト アメリカ文学史	Ⅰ
1	ピューリタン文学と小説の始まり	Ⅰ
2	アメリカン・ルネサンス	2
3	リアリズムと自然主義	3
4	アメリカン・モダニズムの展開	5
5	冷戦の時代と文学	6
6	ポストモダニズムから多文化主義の時代へ	7
7	新世紀のアメリカと世界	8

第Ⅰ部 アメリカ文学史

イントロダクション	—— ^{かいこう} 邂逅の衝撃	10
1	アメリカ大陸の「発見」	10
2	新世界と活版印刷術	11
3	「発明」されるアメリカ	12
第1章	起源と始動——植民地時代～1820年	13
1	アウトライン	13
	(1) バージニア植民地の始まり (2) ニューイングランドとピューリタン	
	(3) マサチューセッツ湾植民地と説教文学 (4) 理論と啓	

蒙主義 (5) カルヴィニズムの抵抗 (6) アメリカ革命と政治的独立

2 ピューリタン文学 23

(1) 予型論という発想 (2) ピューリタンと日記 (3) アメリカ最初の詩人, アン・ブラッドストリート (4) エドワード・テイラー, あるいは最後の形而上詩人

3 理神論の18世紀 27

(1) マザー王朝 (2) 近代人フランクリン (3) フランクリンと明治日本

4 アメリカ小説の誕生 31

(1) 感傷小説, あるいは誘惑と美徳と破滅の物語 (2) ローソンとフォスター (3) C・B・ブラウン, あるいはアメリカン・ゴシック

第2章 ロマン主義の時代—1820~1865年 37

1 アウトライン 37

(1) アメリカの知的独立 (2) 孤立主義と拡張主義 (3) ユニテリアン主義と超絶主義 (4) 社会改良運動と南北対立

2 ロマン主義文学の誕生 42

(1) ロマン主義とは何か (2) アーヴィングとノスタルジー (3) クーパーと自然の美徳 (4) プライアントと炉辺詩人たち (5) ハドソン・リバー派の風景画

3 アメリカン・ルネサンス 49

(1) 黄金期の到来 (2) あらゆる文学ジャンルの源泉にポーがいる (3) 詩人エマソンと思想の環 (4) 理念と行動の人ソロー (5) ホイットマンの自由(詩)と民主主義 (6) 心の探求者ナサニエル・ホーソーン (7) メルヴィルと海 (8) デイキンソンと「白の選択」 (9) ルイザ・メイ・オルコット—少女小説家の仮面の陰で (10) ポー, エマソン, ホイットマンの日本的受容

第3章 リアリズムと自然主義—1865~1914年 64

1 アウトライン 64

(1) 変容するアメリカ社会 (2) 技術革新とホワイト・シティ (3) 多民族社会の形成 (4) 「金メッキ時代」から革新主義の時代へ

	(5) 「 ^{ニュー・ウーマン} 新しい女性」とギルマンの「黄色い壁紙」	(6) 南部における人種隔離と『黒人のたましい』	(7) フロンティアの消滅と帝国への道
2	リアリズムの勃興	71	
	(1) リアリズムとは何か	(2) ハウエルズとリアリズム	(3) マーク・トウェイン——生きることは書くこと
	(4) 意識の探求者ヘンリー・ジェイムズ	(5) ローカル・カラーの文学	(6) ジュエツトとシヨパンの女性たち
	(7) マイノリティ作家の登場		
3	リアリズムから自然主義へ	80	
	(1) 自然主義とは何か	(2) ノリスのロマンス	(3) スティーヴン・クレインと主観的な戦争
	(4) ロンドンの犬	(5) ドライサーと欲望の声	(6) ウォートンとアメリカ／ヨーロッパ
	(7) ダイム・ノヴェル——商品としての物語		
第 4 章 モダニズムの時代——1914～1945年……………89			
1	アウトライン	89	
	(1) 「狂騒の20年代」から大恐慌へ	(2) 第1次世界大戦とインフルエンザ・パンデミック	(3) 大量消費社会と大衆文化の到来
	(4) 消費する／されるフラッパー	(5) ^{ネイティブ・アメリカン} 排外主義の時代	(6) 大恐慌とニューディール
	(7) 第2次世界大戦と日系人の強制収容		
2	モダニズムの幕開け	95	
	(1) モダニズムとは何か	(2) 諸分野におけるモダニズム	(3) 「リトル・マガジン」と新しい詩の誕生
	(4) ロバート・フロストとアメリカン・モダニズム	(5) パウンドとウィリアムズ	(6) モダニスト詩人 T・S・エリオット
3	モダニズム小説の展開	102	
	(1) 「失われた世代」の文学	(2) キャザーのモダン・ノスタルジー	(3) スタインと環大西洋モダニズムの形成
	(4) アンダーソンとルイスの中西部	(5) フィッツジェラルドと結婚という謎	(6) ヘミングウェイの恋と戦争
	(7) ウィリアム・フォークナーと南部		
4	複数のモダニズム	110	
	(1) ハーレム・ルネサンス——運動の多様性	(2) 1930年代の文学	(3) サザン・ルネサンスの作家たち
	(4) オニールとアメリカ近代劇の発展		

第 5 章 冷戦と体制の動揺——1945～1963年……………117

1 アウトライン 117

- (1) 戦後体制の盟主として (2) 冷戦と文化外交 (3) 赤狩りの時代へ (4) 公民権運動の本格化 (5) ケネディ登場と暗殺

2 時代の空気と戦後文学 122

- (1) サリンジャーと純粹さの追求 (2) 自由を求めるビート・ジェネレーション (3) ユダヤ系アメリカ文学 (4) ウラジーミル・ナボコフと冷戦期アメリカ (5) 黒人作家たちにとっての実存 (6) 新たな南部作家たちの声 (7) 戦後の2大劇作家——ウィリアムズとミラー (8) 告白詩とシルヴィア・プラス

第 6 章 ポストモダニズムと多様化の時代——1963～2001年……………136

1 アウトライン 136

- (1) ケネディの死を乗り越えて (2) カウンターカルチャーの世代へ (3) フェミニズム運動のうねり (4) 超大国の動揺 (5) アメリカの復権を目指すレーガン時代 (6) 「歴史の終わり」から世紀転換期へ

2 ポストモダニズムの勃興 142

- (1) ポストモダニズムとは何か (2) ポストモダン文学の展開 (3) 『キャッチ=22』と現実の(無)意味 (4) ポストモダン文学第1世代の作家たち (5) ヴォネガットと戦争の語り (6) トマス・ピンチョンと現代の科学技術 (7) ベトナム戦争とティム・オブライエン (8) アメリカと暴力、マッカーシーとオーツ (9) カーヴァーと「アメリカの夢」の後 (10) トニ・モリスンと黒人の声なき声 (11) 多様化する声とジャンル (12) ポストモダン第2世代 (13) 自然とアメリカと詩人たち

第 7 章 21世紀——2001年～……………158

1 アウトライン 158

- (1) 「テロとの戦い」の時代へ (2) 拡大する経済格差と社会の分断

2 アメリカ文学の現在 160

- (1) テロの時代のアメリカと小説 (2) 創作環境と移民文学 (3) 翻訳文学と広がる「文学」の定義

 第Ⅱ部 作品解題

- | | | |
|----|---|-----|
| 1 | エドワード・テイラー『準備のための瞑想』(1682-1725執筆) | 166 |
| 2 | ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』(1818-19) | 168 |
| 3 | ワシントン・アーヴィング「リップ・ヴァン・ウインクル」(1819) | 170 |
| 4 | ラルフ・ウォルドー・エマソン『自然』(1836) | 172 |
| 5 | エドガー・アラン・ポー「モルグ街の殺人」(1841) | 174 |
| 6 | ナサニエル・ホーソーン『緋文字』(1850) | 176 |
| 7 | ハーマン・メルヴィル『白鯨』(1851) | 178 |
| 8 | ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『ウォールデン——森の生活』(1854) | 180 |
| 9 | ウォルト・ホイットマン『草の葉』(1855-92) | 182 |
| 10 | エミリー・ディキンソン「わたしは見るのが好き、それが何マイルも
舐めていき——」(1862) | 184 |
| 11 | ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』(1881) | 186 |
| 12 | マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』(1885) | 188 |
| 13 | セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』(1900) | 190 |
| 14 | イーディス・ウォートン『歓楽の家』(1905) | 192 |
| 15 | シャーウッド・アンダーソン『ワインズバーグ、オハイオ』(1919) | 194 |
| 16 | T・S・エリオット『荒地』(1922) | 196 |
| 17 | ウィラ・キャザー『迷える夫人』(1923) | 198 |
| 18 | F・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』(1925) | 200 |
| 19 | アーネスト・ヘミングウェイ『武器よさらば』(1929) | 202 |
| 20 | ウィリアム・フォークナー『八月の光』(1932) | 204 |
| 21 | J・D・サルインジャー『ライ麦畑でつかまえて』(1951) | 206 |
| 22 | フラナリー・オコナー『賢い血』(1952) | 208 |
| 23 | ジェイムズ・ボールドウィン『山にのぼりて告げよ』(1953) | 210 |
| 24 | ジャック・ケルアック『オン・ザ・ロード』(1957) | 212 |
| 25 | シルヴィア・プラス『エアリアル』(1965) | 214 |
| 26 | トマス・ピンチョン『重力の虹』(1973) | 216 |

27	レイモンド・カーヴァー『大聖堂』(1983)	218
28	コーマック・マッカーシー『ブラッド・メリディアン あるいは西部の夕陽の赤』(1985)	220
29	トニ・モリスン『ピラヴド』(1987)	222
30	コルソン・ホワイトヘッド『地下鉄道』(2016)	224

第Ⅲ部 資 料

アメリカ文学を読む日本語読者のための読書リスト	228
関係年表	263
関連地図	284
人名索引	287
作品索引	295

[凡例]

- ・本文中では関連記述がある部分への参照指示を記している。たとえば「⇒Ⅰ-1-3-(1)」は「第Ⅰ部第1章第3節(1)」を、また「Ⅱ-2」は「第Ⅱ部2」(作品解題)を示している。
- ・本書で取り上げた作品の引用文中には、今日の人権意識に照らして不適切と思われる語句・表現も見られるが、時代的背景と作品価値に鑑み、文学作品の原文を尊重する立場からそのままにしている。